

## 1. はじめに

あいの里技術士会(通称:あいえん会【ai-en 会】)は、あいの里地区に居住する7名の技術士が集まり、平成19年(2007)に発足しました。その後、口コミや会員等の紹介により会員数が増え、現在は建設部門・農業部門・水産部門の他部門にわたり、14名の技術士・技術士補及び技術士を志す技術者が参加しています。

あいの里技術士会は地域貢献・地域経済の発展を目的とし、技術士が地域に密着した社会貢献活動(地域に何を残せるか)を模索するため、会員の交流や親睦を深めながら、年間を通して地域における取り組みを発想し、様々な方面で活動しております。

この会の特色としては、長く持続できるように堅苦しくなく、無理なく活動することをモットーとし、あくまでも自由参加が基本として活動しています。

今回の報告では、あいの里技術士会(以下「あいえん会」と称す)の一風変わった取り組みを紹介いたします。

## 2. 主な取り組みの紹介

### ①親子体験農業でのピザ窯・タンドリー窯製作

東丘珠にある一角の農場において、「市民体験農業を考える会」として有志により企画運営され、市民親子が直接農業を体験できる場があります。

当時、技術士会の(旧)地域産業研究会 資源・環境・健康分科会がこの活動に参加しており、この農場で収穫された新鮮な野菜をピザにして味わいたいという要望を受けて、あいえん会が支援することとなり、ピザ窯制作に取り組みました。

このピザ窯のポイントは焼き床(ピザを載せて焼く平板状の板)に札幌特産の札幌軟石を使用してい

るところです。

札幌軟石は通常、石碑として使用されることが多いのですが、軟石の中でも比較的やわらかい部分を切り出すことでピザ窯に適した蓄熱性及び耐熱性のある材料として利用できます。



さらに今年はインド料理に使われるタンドール窯の制作も試みました。これでナンを焼き農場で採れた野菜でカレーを作って食すというわけです。

これらの窯制作に関しては素人ですし、出来映えも自己満足の域を出ませんが、親子体験農業に参加されているご家族に好評で、自分達で育てた野菜が一杯載ったピザを、大勢の人たちと笑顔で賑やかに

食べる子供達の姿が非常に印象的でした。

## ②防災意識啓発を目的とした防災プロジェクト

拓北・あいの里地区連合町内会の依頼により、地域防災の意識啓発運動の一端として、あいえん会がそれぞれの知識や経験を生かして防災計画書を作成しました。

連町防災プロジェクトの位置付けはオブザーバーで、防災マップに表わす被害想定についてまとめで依頼されたものです。

地震は柴田、洪水は細川にレポートのまとめ役を決め、それぞれサポート技術士を振り分けて、期間的には平成23年8月から年内という連町との約束でスタート、取りまとめの流れとしては、地震と洪水の過去の災害履歴を振り返り、拓北・あいの里にどのような被害を想定して、どのような対策や心構えをしておくべきかということでした。格好良く独自の想定とやりたいところですが、勿論それはできるわけもなく、あくまで最新に近い公的なデータや資料に基づくこととしました。

地震では平成20年3月の「札幌市第3次地震被害想定」を基にした被害想定と地域や各家庭での備えについて検討しました。

この中では、東日本大震災までの世界、国内、道内、市内の地震被害の履歴を紹介、第3次地震被害想定では区単位までの想定数字のところを、死者数など人的被害は建物の倒壊率に相関のあることから第3次被害想定メッシュデータを利用して拓北・あいの里地区の被害想定に結び付けました。洪水については一般的な洪水被害のタイプと札幌市から全戸配布された「洪水ハザードマップ」の利用方法を紹介した後、洪水による死者数の推定は非常に困難なことからそれは行わず、東日本大震災における建物の被災状況では2m以上の浸水深で被害に大きな差が出たことを示し、洪水災害から命を守るための3つの避難パターン行動についてまとめました。

## ③冬のレクリエーション

～茨戸川でのワカサギ釣り

あいの里の周りを流れる茨戸川は冬になると結氷するためワカサギ釣りが楽しめます。釣り場はあいの里の住宅街から徒歩で行くことができる距離にあり、このようなロケーションは都市域(?)では珍しいものです。あいえん会は、この身近な地域資源を大いに活用し、会員や家族の親睦もかねて、毎年1月にワカサギ釣り大会を行っています。初めて参加した会員のほとんどは、ワカサギ釣りの未経験者であり、わずかな道具さえあれば一日中楽しめることから、身近なレジャーの新たな発見と、新鮮なワカサギ料理を肴に飲む一杯の感動から、その後もワカサギ釣りにのめり込む会員もおります。

## 3. おわりに

あいの里技術士会は有志の技術士・技術者により構成され、あいの里を拠点に活動を展開しています。今後も地域貢献や地域経済の発展、地域の安心・安全を目的として、技術者に求められるニーズに応えられるように、時代や地域に合ったさまざまな企画を提案し、技術士相互の親睦を深め、あいの里に根付いた活動を続けて行ければと願っています。

**山本 肇** (やまもと はじめ)  
技術士(建設部門)

株式会社 マド設計事務所

